

## 第8回塩竈市長期総合計画審議会概要

日 時 平成22年3月16日(火) 19:00~

場 所 塩竈市役所本庁 3階 北側委員会室

出席委員 大滝委員、宮原委員、斎藤委員、水野委員、丹野委員、馬場委員、土井委員、今野委員、北村委員、齋藤(廣)委員、板橋委員、石田委員、阿部(邦)委員、佐々木委員

欠席委員 11名

塩竈市 市長、各部長

事務局 総務部政策課

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 審議

### 【第5次塩竈市長期総合計画基本構想に係る体系(案)について】

(委員) 基本構想の骨子については、第6回審議会の資料2の方が見やすいと思う。

4編から3編に変わって見やすくなった反面、人口減少についてはどこに網羅されているのかわからない。

観光を主体とすると、労働力の低下についての起爆剤はどのようなものか具体的に伺いたい。

また第6回の審議会で出された「地域力」「市民力」という意見は素晴らしいと思うが、今回の基本方針にはその言葉が一言も出ていない。それが文面の中のどこに含まれているのか伺いたい。

(事務局) 人口減少と市民力は、重要な課題ということから、各編のすべてに関する横断的プロジェクトを考えている。例えば人口減少対策であれば「子育て支援」や「環境整備」、「魅力のある都市空間の形成」という個別の取り組みが、それぞれ各編で考えられる。また市民力の強化ばかりでなく行政力の強化という意見もいただいた。市民協働プロジェクトの中に、市民力の強化、行政力の強化も盛り込みたい。

(会長) 観光、労働力の低下についてはどう考えるのか。

(事務局) 観光の部分もかなり重要であると考えている。第4次の計画では、産業振興の一つとして観光を位置づけていた。今回、観光が重要であるという意見を踏まえて2編の2章に観光交流の振興を特出している。さらに横断的プロジェクトも必要であるという意見もあることから、本日意見をいただき整理していきたい。

また地域経済に労働力の確保が必要ではとの意見があった。そこで2編1章3節では一般的な労働力の確保について掲げ、1編の福祉では担い手の確保が考えられる。

(会長) 「地域力」「市民力」「市民協働」というコンセプトは非常に大事であり、各編の章の中にこれらの言葉を積極的に入れていくべきではないか。

(委員) 基本方針は問題の羅列ではないか。そのため市民力の強化などが見えてこない。

各編の都市目標は強力でわかりやすいフレーズでなければならない。この部分に“市民力の強化”を出さなければ主義・思想が感じられない。もう一度見直すべきである。

(委員) 第5次計画は、市民がわかる言葉を使い、出来る事をきちんと示すべきとの意見が審議会で何度もあったが、第3次、第4次計画で成果が出ていないと内容のものが第5次計画に続いており、これまでとは違ったつくりになっていくのが疑問である。

これまでの計画でも「協働」や「ネットワーク」を掲げているが実現していない。今回も同じ言葉を掲げて10年後に成果がでるのか、結果が出せない計画には疑問である。

言葉についても、役所言葉ではなく、例えば市民懇談会で出た言葉を使えば、市民も地域も動くと思う。

(委員) スッキリしているが全体的に抽象的で、夢が持てるという感動が伝わってこない。

長期総合計画を少しでも実現させる為には、事業の達成目標や誰の主催や責任で実施していくのかを明確にする必要がある。分科会や地区懇談会で具体的な提案が出されているのでそれを計画に入れていくのも良いと思う。「協力しよう」という市民がいるという事を提言書の中で感じられたので、具体的に見えるようなまとめ方をして欲しい。

- (委員)この長期総合計画は市民のものなのか。市役所のものなのか。
- (事務局)基本的には市民の計画。それを行政で支えていくという組み立てである。
- (委員)市民の計画であるなら判りやすくしていかなければならない。第3次、第4次のように計画を立てても変わらなかったという時代ではないので、大変革時代の第5次計画であることを印象づけるのにもフレーズと構成は重要である。
- (会長)言葉の使い方、市民の理解のしやすさは、市民の言葉や発言の中で使えるものを入れていくべきだと思う。また「何を中心的に確実に実現できるのか」ははっきりしなければ、これまでの計画と同じになってしまう。という懸念は大事な問題提起だと思う。このことを解決するために、何かをどう盛り込んでいくべきか、今の段階で考えておかなければならない。
- (委員)市民のある男性が立ち上がり、やがて地域住民や最終的には行政が全面的にバックアップして、新聞で紹介されるほど「ホテルの里」が成功している。これは地域力が行政を動かした一つの事例だと思う。
- (委員)言葉にオリジナリティーが無いという感じがする。この長期総合計画を、市民が作るものだとすれば、数値目標ではなく希望数値ではないだろうか。
- (委員)市民の立場に立った構想であるという話があったが、市民の立場になれば施設建設や福祉を沢山行う計画ということになると思う。しかし予算も無いことから合理的ではないが、「このような対策を用意している」という説明がないために非常に無機質に感じる。
- (委員)例えば地域産業の振興であれば「港町ブルース」、観光広域の振興であれば「よくきたこと」、活力ある浦戸であれば「浦戸さござい」、子育てであれば「子宝大作戦」、豊かな心を育むまちであれば「やさしいあなた」、市民協働の推進であれば「みんなの力」などの表現であれば、わかり易くて面白い感じがするのではないか。
- (会長)出来るだけ市民の目線で、読んでわかりやすいというのは非常に大事だと思う。そして都市目標も市民の言葉に近い所で表現することが大事だと思う。  
行政の政策も大事だが、市民は何を出来るか、やる必要があるのか、市民を主語にすることを今度の長期総合計画の中に取り入れていくことを現段階で確認したほうが良い。
- (委員)市民のための長期総合計画だが、行政が事業を行う場合、面白い表現では漠然として目的がわからなくなる。言葉はあくまでも看板であり、中身が大切である。
- (委員)第2編は「海と港をいかした活力のあるまちづくり」となっていたのが「海と歴史のあるまち」となり「港」がなくなっている。港というのは本市にとって大切なものであり、港を活かした産業を考えていくべきである。港を安易になくすのはいかがなものか。
- (副会長)本日の議論を伺い、基本方針の構成が変わった点については了承され、もう一つは、役所的な言葉の問題であり、これまでの計画が十分に実現してこなかったという不信感からだと思う。言葉を変えたからといって、中身が変わるわけではない。中身を肉付けし実現可能なものにするとともに、市民にわかりやすいフレーズと併記するような仕掛けも必要だと感じた。基本構想という形で最終的にはまとめていくために各論が羅列的に並ぶのは仕方ないが、それをどうやって具体的なものとして、実現性を提示するのが問われている。
- (副会長)何が問題でどんな目標にすべきかという点で、例えば、塩竈は人口減少に取りくまなくてはならない。3つの基本方針においてどのような課題解決ができるかという点で、例えば暮らしでは子育ての環境を整えていく、産業の方では交流人口を増やす、ひとづくりの部分では人の流出を抑えるひとづくりというような、横軸をもってそれぞれの枠で何が出来るか取り組んでいく。  
また経済の活性化も大きな課題である。例えば、暮らしでは公共サービスの効率化、産業では水産・観光の高収益化の仕掛けづくり、ひとづくりでは雇用や人材の確保。  
そして塩竈に愛着をもってもらう人ということでは、例えば暮らしでは、防災や防犯、産業では浦戸の振興や塩竈オリジナルの製品づくり、ひとづくりでは歴史文化の振興。  
さらに塩竈が美しい港町になっていくという夢をもった時に、暮らしではすてきな住環境、交通の整備、産業では港町の整備、ひとづくりでは協働での掃除や緑化運動。  
一つひとつ目標についてそれぞれ3つの軸で何をすべきかを整理していくと、何をどう取り組まなければならないのかが整理されてくる。やらなくてはならないことを一番左側に掲げ、暮らし、産業、ひとづくりの中に、どの項目を置いていくとそれが実現するかを考えていくと強調するべきところが大枠で整理できるのではないか。

またそれぞれの項目を二つに分けて、“市民がやること”“市がやること”と分ければ、それぞれの言葉が皆変わりわかりやすいと思う。

- (委員) 懇談会で出た言葉を入れてみたらいかがか。4次の計画を作ったときに3次の委員から「どうせまた同じ計画になる」といわれた事が印象に残っている。皆から出た言葉をこの大区分なり、小区分の中にはめ込み、市民が主体にならないとだめだという認識を持ってもらえばいいと思う。
- (会長) 大きな長期総合計画の骨組みという所から見ると、図の一番左の課題と書いてある所が何かということをおある程度きちんと柱として立てていくというのが、今、私たちがやらなくてはいけないことだと思う。人口減少についても少子高齢化に対してどう感じているのか意見をいただきたい。横断的なプロジェクトの中では市民協働という言葉が出ているが、図に具体的に入れた方がいいのではないか。
- (副会長) 計画書の中に、市民と市に分けて書いておけば、市民協働ということが自然と分かると思う。
- (委員) はたして今の若い方が塩竈に子どもを育てに来るのかなというのが疑問である。
- (会長) 整理をすると、前回の4つの柱を3つにすることについては概ね賛同が得られたと思う。一つは表現、言葉遣いの問題。これは市役所の計画だけではなく、市民の計画だと踏まえると、表現、言葉遣いの問題にはもう少し配慮すべきという意見と、行政の計画という側面もあるので、両方うまくいかせるようにという意見。それから縦割りの表現は、塩竈全体が何をしようとしているのかよく見えなくなってしまうので、向かうべき目標と課題をきちんと出すこと。そして市役所がやるべき事、市民がやるべき事をはっきりと分け、協力できることがわかる形をつくれれば、明快な共通目標を市役所も市民も持つ事が出来るのではないかという提案。
- 今までの審議会や懇談会の中で出てきた重要なキ-ワードを市民の生の言葉で表現できるものは生かして、本日の意見に基づき修正して欲しい。

#### 【人口フレームについて】

- (会長) 人口目標で4,000人積み上げた根拠は何かあるのか。
- (事務局) 出生、死亡という自然的な側面と流入と流出という社会的な側面があるが、自然減少は難しいので、社会的流出についての手立てで増加させる目標となっている。
- (委員) 人口目標を55,000人とするため、10年間で4000人増とする各年の割合はどうなのか。
- (委員) 仙台の待機児童は多く、塩竈はゼロなので、若い世代の流入を導けば良いと思う。  
また待機児童ゼロなのに、学童児童数が多いのはなぜか。
- (事務局) 今後の児童数、保育所数を含めた5ヶ年計画を進めている。今年度は入所段階で待機児童ゼロでスタートしたが、年度途中での出産や転入児については待機が発生している。年間を通して待機児童ゼロになるよう取り組んでいる。  
学童保育は小学校1～3年生までで、基本的には各学校に教室を設け、平成20年度は8クラス、在籍者数は2,875人である。
- (委員) 人口減少は産業界でも問題となっており、石油コンビナートや食品関係の大型工場の撤退が増えている。日本の石油コンビナート精製量は日産430万tだが、生産は330万tで、来年には300万tを切り、5年後には280万tになるだろうと言われている。  
海外進出はするが、国内需要は衰退しているので撤退するという大変な状況下にある。すでに人口減少を止める段階ではなく、減少にどう対応していくかという段階である。
- (会長) これは塩竈市だけではなく全国皆そうである。私も今、仙台市の総合計画に参画しているが、仙台市もすごい勢いで人口が減っている。現在103万人だが、50年後には75～76万人となる。塩竈市がここで4,000人上乗せしているのは逆に下振れする可能性が十分あって、50,000人を割るところまで落ちていく可能性が十分ある。その上で市の意志として55,000人を設定するのは、施策を全力投球でやっっていかなければならない。
- (副会長) 私も平成10年に松島の総合計画に参画していたが、その時に人口フレームの議論があり、当時は17,000人前後だったが、10年後の目標を21,000人にした。しかし現在は17,000人を切って16,000人代になっている。4,000人という数は右肩上がりの時代と違いハードルが高い。塩竈の暮らしがどう快適にできるのか議論をしなければならない。
- (委員) 計画を作るにあたり、国の推計人口のままではいけないのか。  
施策の例が沢山掲げられているが、本当に出来ることと無理だという本音はあるか。
- (事務局) 2000年の人口は、多賀城と塩竈はほとんど人口に差がなかったが、10年後には差が出ている。その原

因は子どもを生む世代が極端に少なく、若い世代に住んでもらう取り組みが大事である。

その取り組みとして子育て支援がある。このままでは社会を支える人、支えられる人の数が逆転して行く事が懸念される。人口減少の歯止め策を的確にとっていかなければならない。

(会 長) 国の機関の51,000人という数値を、あえて4,000人増とするのは何か都合があるのか。

(委 員) 多賀城と塩竈市の人口の差の理由は何か。

(事務局) 子どもを生む世代の流出と、少子高齢化の時期が周辺市町に比べて早いいため人口減少に入っている。51,200人という数値は、これまでと変わらないまちづくりの状況に想定される人口であり、そのまま受け入れることは新長期総合計画を策定する上で疑問である。社会的人口は減少させないという市の方針を表現したものなので、具体的に記載した事業について実現できる方向を協議し意見を賜りたい。

(委 員) 塩竈は丘陵が多く道路が狭隘で車も入れないため、平坦な土地に行きたいと多賀城などに引っ越す人が多く、空家が多くなってきている。特に高齢化が進んでおり、そのような人たちが住めるようなアパートやマンションを希望したい。

(委 員) 社会減少を食い止めるための第5次長期総合計画をしっかりと打ち立て、夢と希望がある塩竈をつくっていくべきと更に実感している。

(委 員) 塩竈はお祭りもあるし、マグロは美味しいし、もっと早く引っ越してこなかったことを後悔しているという話もあった。

(委 員) 住宅の検査員をしているが、多賀城の着工件数と塩竈とでは断然違う。多賀城は平坦で地盤も良いが、塩竈は狭隘で軟弱であり、住宅環境としての差が大きいのだと思う。

塩竈は駄目かということではなく何か手立てはあるだろうと考えている。

(市 長) 長時間活発な意見をいただき、皆さんの塩竈への熱い思いを心強く感じた。

前段の庁内でも3つの基本方針や人口減少について議論したが、市民の皆さんが、夢と希望、誇りを持ちながら塩竈に住み続けていただけるような長期総合計画でありたい。そして塩竈に移り住む方が増え、このまちの良さを多くの人に体感してもらいたいという思いである。

市民懇談会でも高校生を含め活発な議論をいただいた。委員の皆様の真摯な意見を頂戴し、市民の視線がもっと違った方向にあることを気付かされた。本日の議論を取りまとめ、次回に改めて都市目標、政策区分、人口フレームについて提案させていただきたい。

また宮原先生からは総括的にこの長期総合計画を理解するための資料を頂戴し、早速本編で活用させていただく。市民や行政の役割を明確に出すこともしっかり対応したい。学識経験者の皆様方にはシンポジウムでも意見を頂戴する。重ねて御礼を申し上げます。本日は本当にありがとうございました。

次回の審議会は4月28日(水)午後の予定で調整していただいております。